



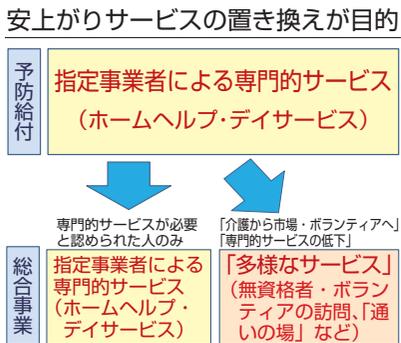
会場いっぱいの参加者（パブコム学習会）

「これからも、このまちで」 安心の暮らしを支えたい

2015年4月 発足以来の大幅引き下げの介護報酬改悪に向けて、「在宅生活を支える医療現場」と「これからの堺市介護事業計画の学習」を開催しました。2つの視点からの取り組みを報告します。

2月4日、日下部雅喜氏（大阪社保協介護保険対策委員）を講師に、2015年度からスタートする堺市の第6期介護保険事業計画（素案）について学習しました。事業計画そのものは資料も含めると膨大な量でしたが、「市民目線で読む」と題した講師の説明で、堺市がこれからの3年間でやることとして内容や何が問題なのか学ぶことができました。

全体として新規事業は、お金をかけないものが多く、特別養護老人ホームなど施設建設も待機者数に見合ったものには全くなっていないこと。国による要支援者外しに対して、堺市として地域総合事業へ2017年4月から移行していくことなどが示されました。



堺市第6期介護保険事業計画の学習とパブリックコメント書き込み会を開催



講師の中村三千人医師

「医療者」と本人・家族・双方の思いの溝（ギャップ）に触れながら、在宅医療の持つ特別な意味をあらためて学ぶ機会となりました。

在宅医療「訪問診療と在宅看取り」学習会

その人に向き合った 支え合う医療をめざして

1月29日、在宅療養診療所関係者会議主催で、「支え合う医療学習交流会」を開催し、各事業所、多職種を交えた66人が参加しました。

また、また鳳クリニックと老松診療所の在宅部門から事例紹介、同仁会における在宅医療の現状と課題について緒方浩美所長から報告。学習会を通じて、顔の見える関係づくり、日頃からの他職種カンファレンスの必要性を認識する学習交流会となりました。



聞き入る参加者

寄せられたパブリックコメント（抜粋）

- 要支援1・2の方が引き続き同じサービスを利用できることを望みます。
- 介護保険料が上がる中、サービスが利用できなくなることは許せません。
- 配食サービスに堺市からの補助金を。
- 特別養護老人ホームを生活圏域に最低1カ所作ってほしい。

こんにちは！ 事業所だより



⑧ 専門職の講義形式で、自由に懇談します。介護福祉士や相談員等が各テーブルを回って、自由に懇談します。

カフェの存在が、認知症への理解につながるようになっていきます。

毎月第1木曜の14時から16時、「もの忘れカフェおれんじ」を開いています。カフェは、2013年11月耳原鳳クリニックで始まり、現在はクリニックの向かいにあるサービス付き高齢者住宅「ひまわりの家」に、場所を移して行っています。

は、なく、当事者と家族が思いや困りごと体験などを語る形式です。笑いあり、涙ありのカフェを通して、私たちが「こんなことで悩んでいるはず」と思っていたことが、実はそうではないと気づかれます。本音を聞くことが、私たちにも刺激になり、新たな発見の場となっています。そして参加者が、翌月には近所の友人を誘って訪れるなど、広がり始めています。



カフェ入り口（飲み物 1杯100円）

もの忘れカフェおれんじ



■会場 「ひまわりの家」1階ホール（サービス付き高齢者住宅）
〒593-8325 堺市西区鳳南町4丁476-2

■問い合わせ先 耳原鳳クリニック
TEL：072-275-0801

本人・家族の孤立を防ぐ